

2019. 11. 26

畑 啓之

デジタル分業で生産性効率社会が生まれつつある ギグワーク（単発の仕事）が世界へ

昨今、日本でも生産性効率が謳われ、それに伴い仕事の見直しや組織のスリム化などが行われている。その効率化の前提となるのは、まずどのようなニーズが社会にあるかということであり、これは社会の在り様、すなわち人々のライフスタイルに大きくかかわっているものである。

このモノが満ち溢れた世の中で、人々がいま求めるものは情報である。欲求（欲望）を充足させるに足る情報である。情報は情報と結びつき新たな情報を生み出していく。際限なくつながら発達していく情報の嵐の中で、その情報の方向付けをし、整理し、価値あるものに高めていく。そのような仕事が今まさに求められている。

ネットショッピングではモノを売買しているように見えるが、その実態は「利便性」や「満足」を提供しているものと解釈すれば、これは正に情報を介した精神価値の探求に外ならない。また、金融商品の売買やその売買に伴う会計処理などもネットを介して実行可能であり、すでに日常の姿となっている。

人々の好みや要求はそれぞれであり、そのそれぞれの欲求が大きな市場や小さな市場を形成している。すでに現在社会はたとえその規模が小さくても小さな市場の存在意義を認めている。その市場に精通し、さらにデジタル分野に明るい人々は、働き場所（物理的な地点）に縛られることなく、その実力を収入へと変えられる世の中になっている。

人々の生活様式の多様化により、規模的に見て小さな市場であっても、情報回線を利用しての仕事が成立する時代となっている。かつては（今も？）オタクといわれた人々も、時代を少し先まで行き過ぎていただけであり、もうすぐ時代のほうがオタクに追いついてくる、そんな世の中がすでに現実のものとなってきている。

精神の充足に価値観を置いた社会の実現は、モノへの執着からの離脱でもある。エネルギー問題や資源問題等、精神の充足を追い求める社会は 20 世紀に生じた多くの問題解決に何らかの解決策を与えうる可能性がある。

Neo economy

昨日とは違う明日 ①

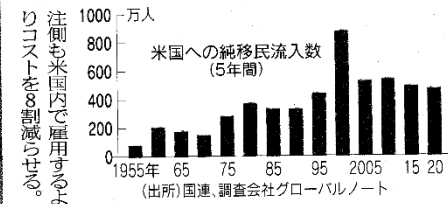
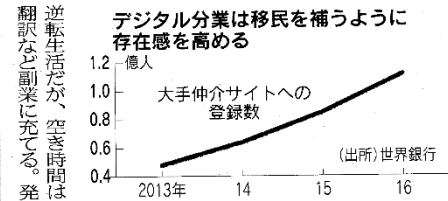
モノではなく、知識やデータが価値を生む経済への転換は、私たちの価値観や常識に変化を迫る。明日は昨日の延長線上にはない。不連続の時代だ。

「デジタル分業」世界で1.1億人

生産性、地球規模で競う

「海外に行かなくても稼げる」。家族と暮らせることを喜ぶキャサリン・イバニェスさん(29)は、マニラ市内の自宅で米西海岸の会計事務所から仕事を請け負う。午前0時に「出勤」してパソコンをネットにつなぎ、会計士の予定の調整など事務をこなす。

脱・出稼ぎ広がる
米時間に合わせ午前9時まで働き、フィリピンの平均を上回る月500ドル(約5万5千円)を稼ぐ。昼夜



働き方が広がり、フィリピンの海外への移民は2018年に7万3千人とピークの15年からの91%減った。アダム・スミスは「富強論」で、富を増やす方法は分業だと説いた。役割の分担が生産性を高めるからだ。かつては人の移動が人材を最適に結びつける近道だった。ところが世界で排外主義が広がり、米国の5年ごとの移民の純流入数は00年の886万人をピークに15年には496万人に落ち込んだ。物理的な人の移

動の停滞を補うように、世素早く、最適な人材を雇え界を結ぶネット空間では国や企業の垣根を越えた「デジタル分業」が広がる。世界銀行によると「デジタル分業」の参加者は16年に1億1千万人と3年で2・3倍に増えた。米国が21%を占め、インド(22%)も目立っている。英オックスフォード大学の調べでは高度なソフトウェア開発の55%をインド人が受注している。東南アジアやアフリカで仕事を請け負う人に聞くと、68%がオンラインでの仕事が「重要な生計の源」と答えた。企業はネットを通じて世界35億人の労働力人口から最高4千円というのが「英語

「海外に行かなくても稼げる」。家族と暮らせることを喜ぶキャサリン・イバニェスさん(29)は、マニラ市内の自宅で米西海岸の会計事務所から仕事を請け負う。午前0時に「出勤」してパソコンをネットにつなぎ、会計士の予定の調整など事務をこなす。

脱・出稼ぎ広がる
米時間に合わせ午前9時まで働き、フィリピンの平均を上回る月500ドル(約5万5千円)を稼ぐ。昼夜

逆転生活だが、空き時間は翻訳など副業に充てる。発注側も米国内で雇用するよりコストを8割減らせる。

「外注といえはかつては多くが、大企業によるコンサルティング会社などへの委託だった。ギグエコノミーの拡大は、外部の専門的な労働力を活用する機会を中小企業にも与えたことに意義がある。働く側から見ると、技能さえあれば場所や時間に関係なく柔軟に、より高い収入を得られる可能性が生まれた。生産性を引き上げ、世界経済に恩恵をもたらしている」

ギグワーク、世界経済に貢献

Neo economy

(1面参照)

知識やデータが巨大な価値を生み出す時代に、経済活動のあり方はどのように変容していくのか、内外の有識者に聞いた。初回は英オックスフォード大のレイドンビルタ准教授。

「ネットですら単発の仕事も増えています。」「外注といえはかつては多くが、大企業によるコンサルティング会社などへの委託だった。ギグエコノミーの拡大は、外部の専門的な労働力を活用する機会を中小企業にも与えたことに意義がある。働く側から見ると、技能さえあれば場所や時間に関係なく柔軟に、より高い収入を得られる可能性が生まれた。生産性を引き上げ、世界経済に恩恵をもたらしている」

ギグエコノミーとは、「gig(単発の仕事)」と「economy(経済)」を組み合わせた造語です。多くの場合、インターネットを通して単発の仕事を受注するワークスタイルと、それによって成立する経済を指します。